

大人に刺さる「子ども新聞」

「子供が書いて大人が読む」をテーマにしたローカル紙「かめおか子ども新聞」が話題を集めている。子供記者が街で取材した内容をまとめ、人口約9万人の京都府亀岡市で毎月3万部を発行する。5月には、同紙の人気

コーナーをまとめた書籍が大手出版社から発刊されたほか、来春には韓国での出版も決まった。地元密着の記事や本質に迫る、子供ならではの鋭い視点が人気の秘密のようだ。(吉国在)



かめおか子ども新聞

新聞を教育に生かす

は「保育所は虫だらけ」に決まった。

8月28日午後、保育園児から中学1年の子供記者6人が市内の「東本梅保育所」を訪れた。園長が、自然との触れ合いを掲げる保育所について説明すると、「園児の数は」「園児は虫が怖くなるの」と質問が飛び。だが、質疑応答中に、飛んできたトンボやチョウを追いかけて始める記者も。

取材後は、教室で机を囲んだ編集会議を開催。「自然がいっぱい」「理科が得意になるかも」との意見が出され、見出しも

5千円の月謝で、5〜13歳の約10人が月4回ほど取材に向かう。地元の人気店から交番ま

Q.45歳モテる秘訣は A.子供記者20代狙ってない?

「かめおか子ども新聞」に寄せられた相談

大人からの相談

5歳の娘が本当に言うことを聞きません。お風呂上がりに服を着ないし、ごはんは食べかけで席を立てて遊び出す。何度怒ってもまた同じことをやります。

子どもとはそういう生き物です。親は子どもを都合よくコントロールしすぎ!ぼくらはロボットちゃう。そんな気になってもないんちゃう。大人になっても風呂上がりに服着ないなら問題だと思います。

恋をするってどういうことですか。最近自分でもよくわからなくなってきました。

恋をするとはそういうわからない気持ちになることだと思います。だから恋してるんやと思います。

子どもの小学校受験に夢中な妻。小さい子に勉強は必要ですか。

そんな妻アカンで!子どもの自由を奪う悪い人だと思います。やっやっエリートな道を親が勝手に作るから子どもがダメになるんや!子どもに自由を!

辛くてなんですか。わからなくなりました。

手を叩くことかな?でも、辛くて自分で決めることです。だから、あなたのなかにあると思うので、何をしているときに辛さを感じるのかを考えてみてはどうですか?人に聞くもんじゃないよ。

※新潮社「はい!こちら子ども記者相談室デス!」から抜粋

子供記者の回答

ノートとペンを手に取材をすすめる子供記者たち
8月28日、京都府亀岡市の東本梅保育所



京都・亀岡 鋭い視点 子供ならではの

で、取材先は200カ所以上になる。記者歴3年の中学1年、今村孔祐君は「記者になって、自分の知っている世界が、一部だったことに気づけた」と話す。

A3で両面カラー刷り。地元の新聞販売店の協力で毎月20日、2万部を新聞に折り込み、1万部を病院などへ無料配布し、月謝と広告費で運営している。

人気コーナー書籍化

なかでも絶大な支持を誇るのが、昨年1月号から始まった「はい!こちら子ども記者相談室デス!」。大人の悩みに子供記者が答えるコーナーだ。

45歳未婚男性から寄せられた「モテる秘訣を教えてください」との相談。「45歳なのに20代とか狙ってませんか?」「無理なら結婚しなくてもいいんじゃない?」むしろ独身の方が楽に生きられる時代だと思えます。

同3月号に掲載されたこのやりとりがツイッターで拡散され、「辛辣だけど的確」「震えるレベル」と一夜にして10万件を超える「いいね」を獲得した。

同紙の存在は全国に知られ、5月には相談のやりとりをまとめた同タイトル単行本が新潮社から発行された。相談内容は、子育てや恋愛、人生などさまざまなが、子供ならではの率直な回答に思わすうなすいてしまっ。

「村度一切なし。拙い言葉だけれど、子供の何げない一言はなかなか的を射っていたりします」と竹内さんは人気の秘密を分析する。

新学期が始まり、記者たちも、今月20日に発行される最新号の取材に余念がない。竹内さんは「取材には、人と出会う楽しさやマナー、人を育てる目など、人生の大切な学びが全てある。今後とも記者たちの玉稿を届けた」と話している。